

こだま俳壇(六月句会)

齡重ね縮むわが身や更衣	角田英昭
蛩見て星見て旅を終わりにけり	松尾佐知子
そろそろに終活のこと更衣	友井眞言
早苗田や高台走るバスの窓	本山文子
更衣うぶ毛の光る少女かな	中野みどり
あじさゝみや友の愚痴聞く昼下り	島田多嘉子
あめんぼうを散らして過る島の雨	田中一男
更衣鏡の前で色合わせ	中村桂子
直かに着る縞のTシャツ更衣	大塚敏高
睡蓮と風知草ある蒲鉾屋	柳瀬節子
大輪の薔薇に包まれおしゃべりに	高橋和江
朝顔の宇宙帰還の種芽ぶく	常世田芳子
花菖蒲姿勢よろしく凜と咲く	小室豊子
友亡くし涙にくれて濃紫陽花	並木まり子
梅雨に入り湧く蚊を叩く戦かな	後藤貞夫
我が庭の紫陽花二輪重たそう	瀧澤正行
美しき振花芝を喰って咲く	白井保次郎
托鉢に出てゆく僧も更衣	太田土男先生

講師